

麻しんの発生動向の把握 及び評価について

青森県麻しん対策会議
平成26年2月19日(水)

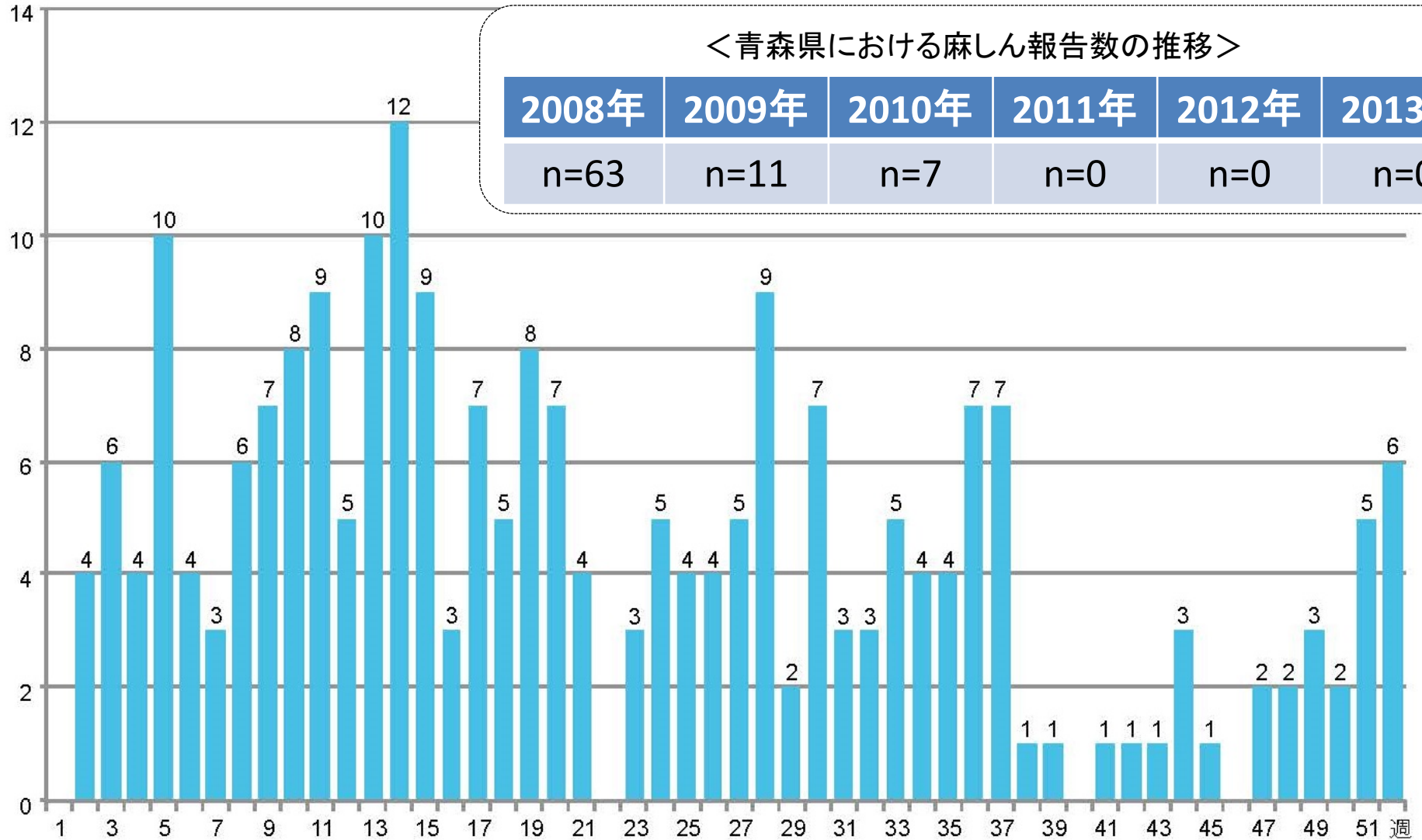
青森県健康福祉部保健衛生課

麻しん

全国の週別報告数(2013年 n=232)

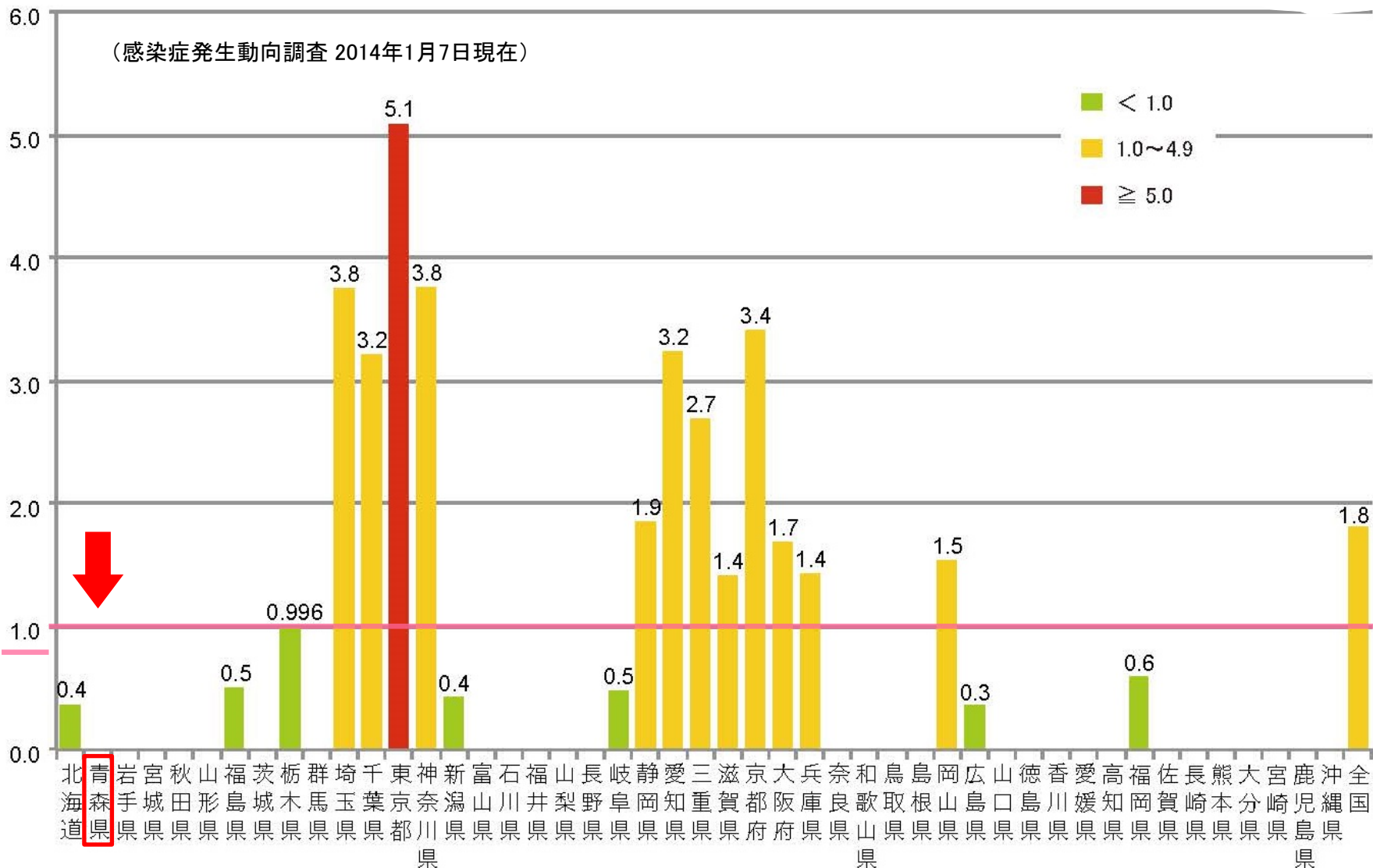
＜青森県における麻しん報告数の推移＞

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
n=63	n=11	n=7	n=0	n=0	n=0



麻疹

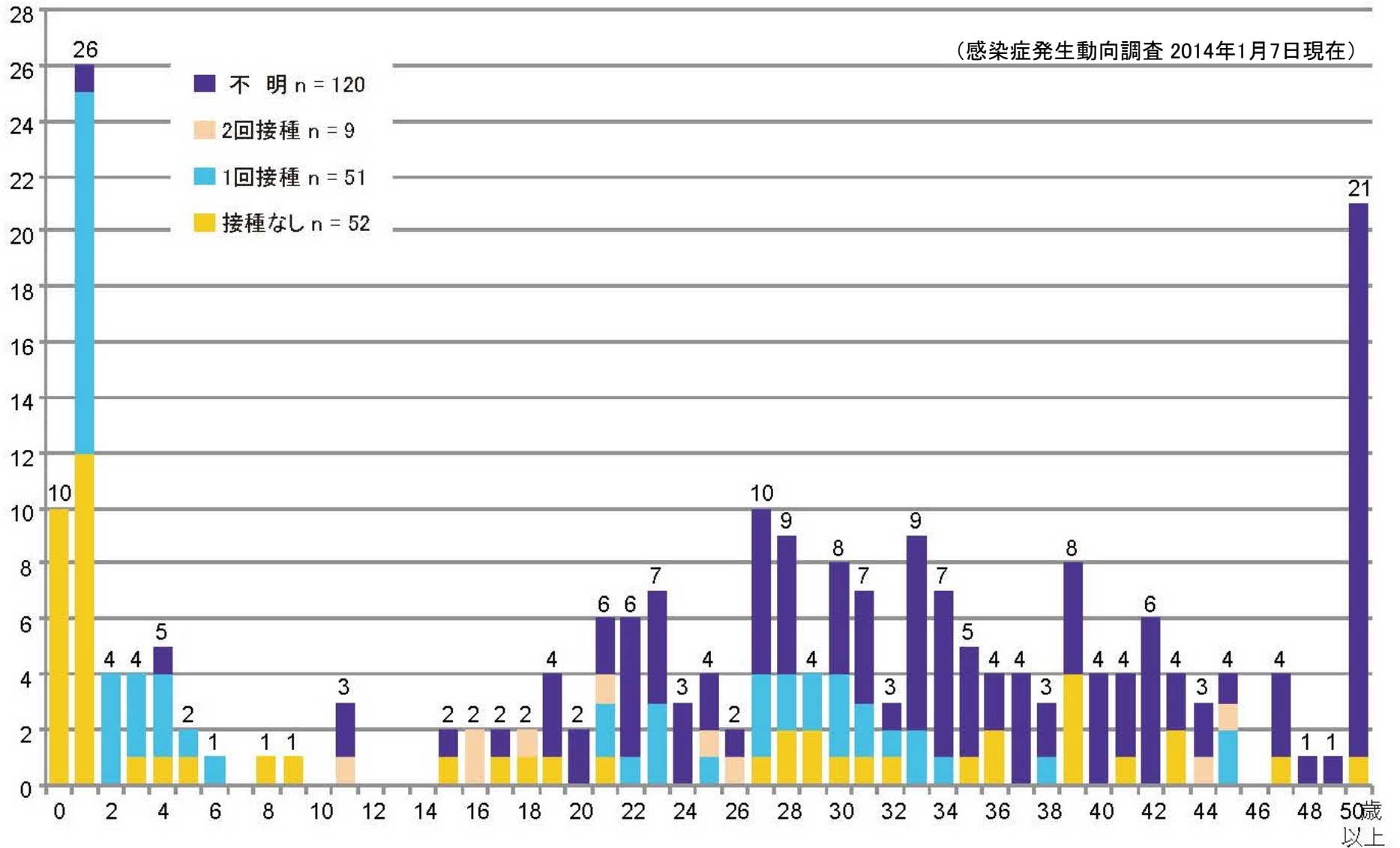
都道府県別人口百万対報告数(2013年)

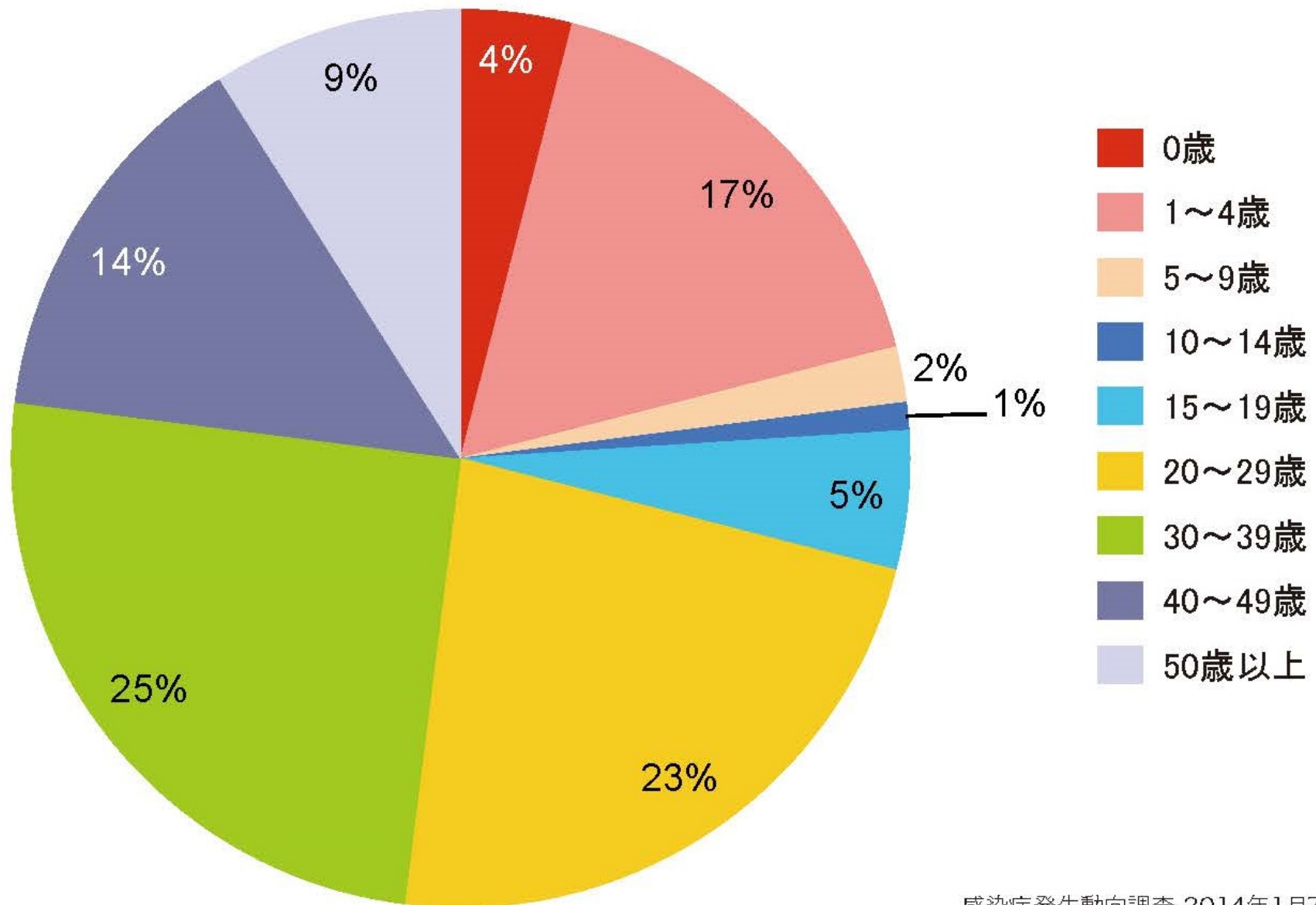


診断にウイルス遺伝子検査を積極的に導入した結果、3年連続で人口100万人当たり1例未満を達成

麻疹

年齢群別接種歴別報告数(2013年)





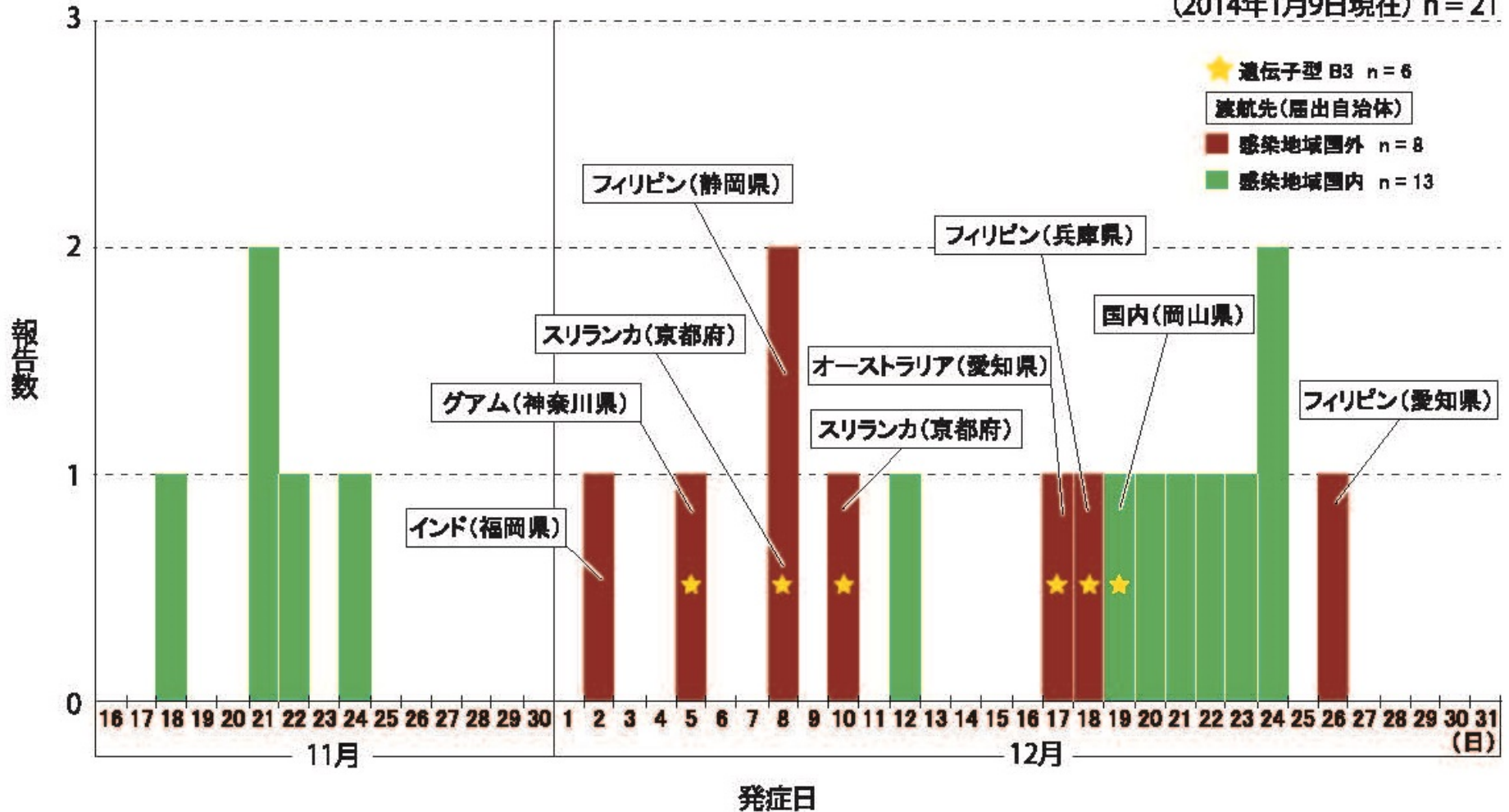
麻しん

感染地域別・遺伝子型別発症日別報告数

(2013年11月16日～12月31日)

(感染症発生動向調査)

(2014年1月9日現在) n = 21



輸入例の動向を注意深く監視し、国内二次感染を警戒する必要がある
→麻しんを疑ったら直ちに対応(疫学調査、PCR検査)、ワクチン接種の徹底

No	検査月	年齢	性別	ワクチン 接種歴	麻しんPCR			麻しんIgM 数値
					血液	咽頭ぬぐい液	尿	
1	1月	16歳	男	あり	(-)	(-)	(-)	(-)
2	5月	4歳	男	あり	(-)	(-)	(-)	(-)
3	5月	22歳	男	あり	(-)	(-)	未実施	(+) 6.48
4	6月	17歳	女	あり	(-)	(-)	(-)	未実施
5	8月	7ヶ月	男	なし	(-)	(-)	(-)	(-)
6	10月	2歳	女	あり	(+)	(+)	(-)	(+) 3.3
7	10月	1歳	男	あり	(-)	(-)	(-)	(±) 0.97
8	12月	41歳	男	不明	(-)	(-)	(-)	(-)
9	12月	1歳	女	あり	(-)	(-)	(-)	(+) 1.8

注)1 (-):陰性 (±):判定保留 (+):陽性

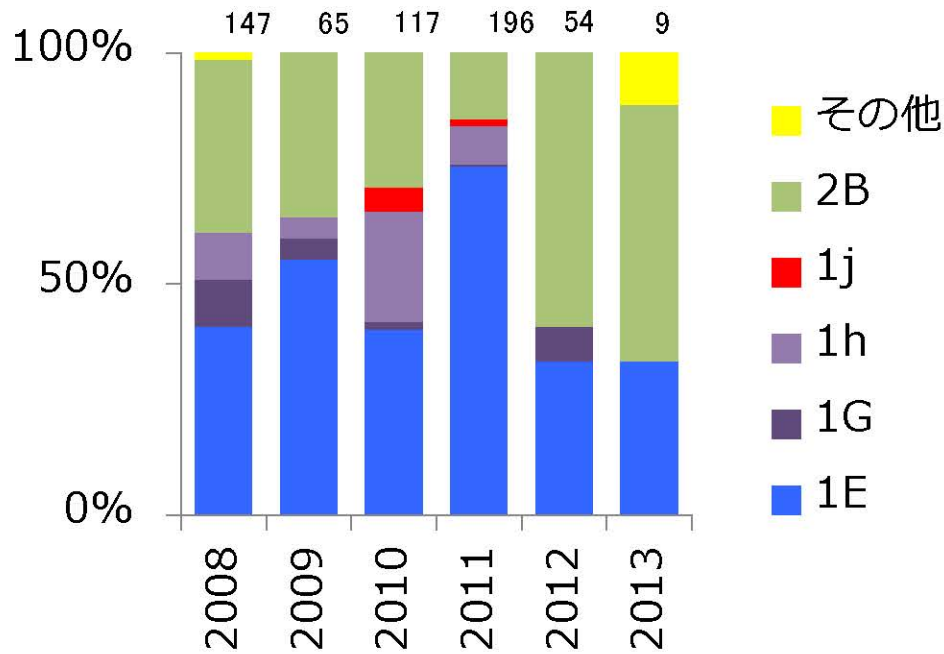
注)2 麻しんIgM抗体検査キット(デンカ生研(株))による判定基準 → 陽性: IgM>1.20 陰性: IgM<0.80 判定保留: 0.80≤IgM≤1.20

*平成25年11月22日から偽陽性が少なく特異性が向上した改良品である麻疹IgM「生研」が販売

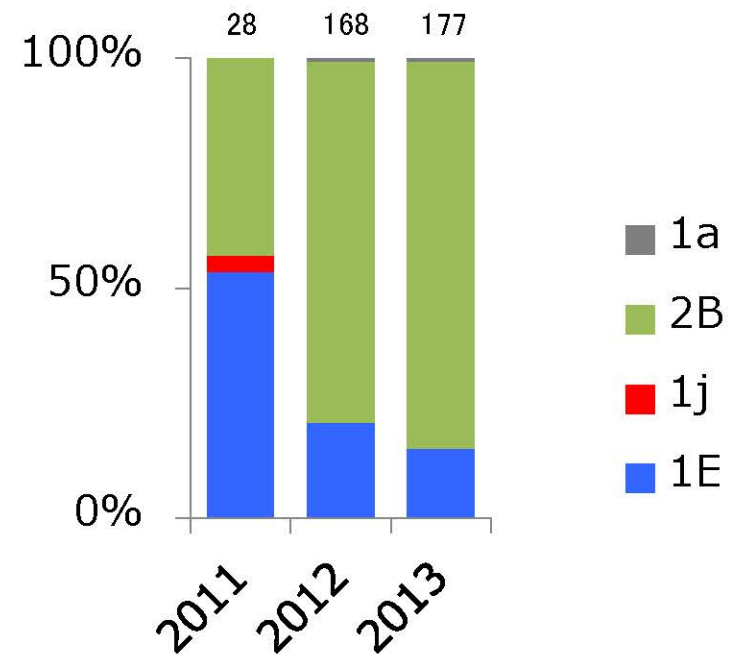
麻しんIgM抗体が陽性であっても、PCR検査や疫学調査等の結果を踏まえ、総合的に判断することが大事

引用：平成25年9月30日第1回厚生科学審議会感染症部会風しんに関する小委員会－国立感染症研究所資料

全世界(2008-2013)



日本(2011-2013)



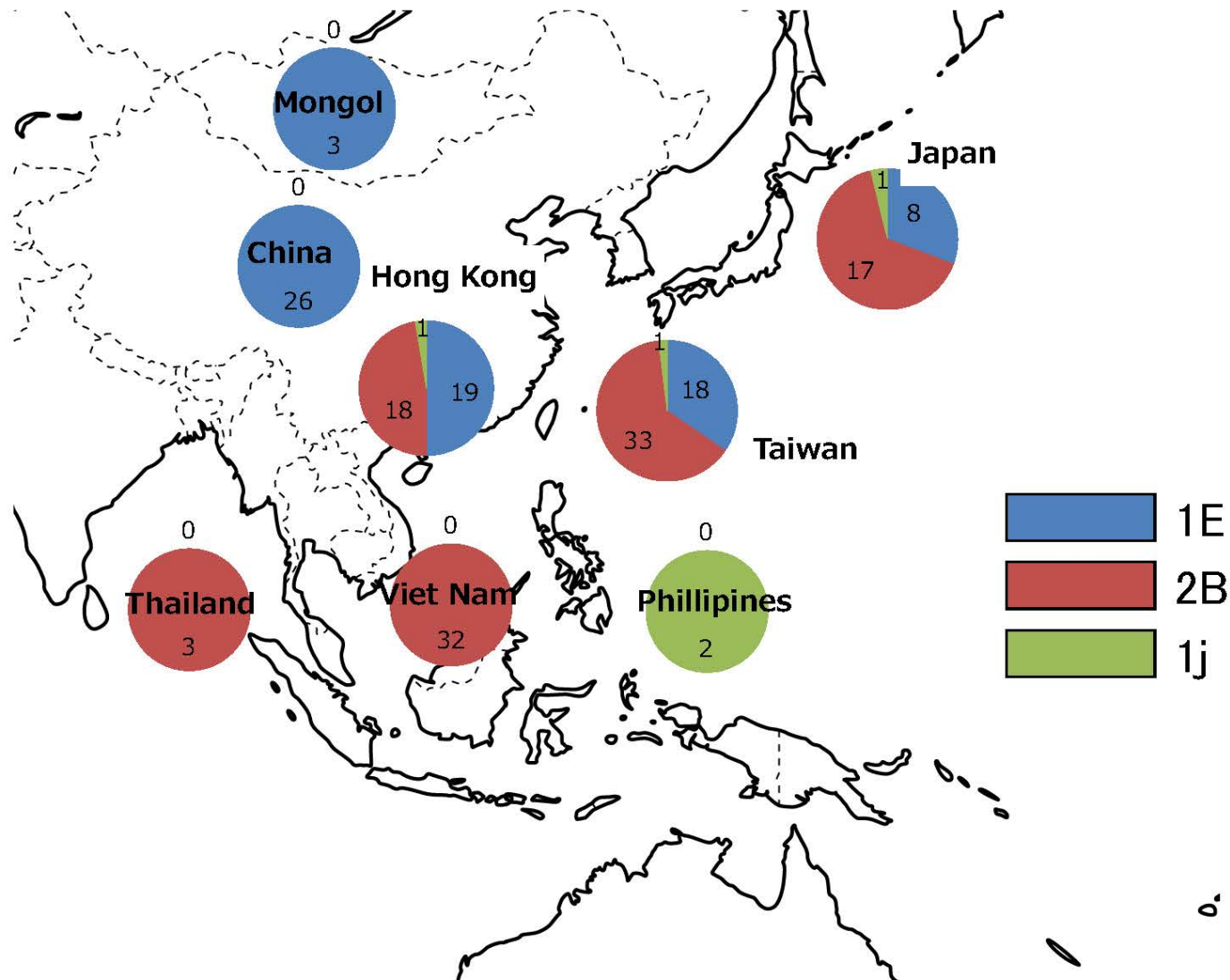
By Dr. Icenogle, CDC
 10th MR Labnet meetingを改訂
 2012~2013年はRubeNS参照

遺伝子型未同定を除く
 病原体検出情報
 2013.8.27集計データ

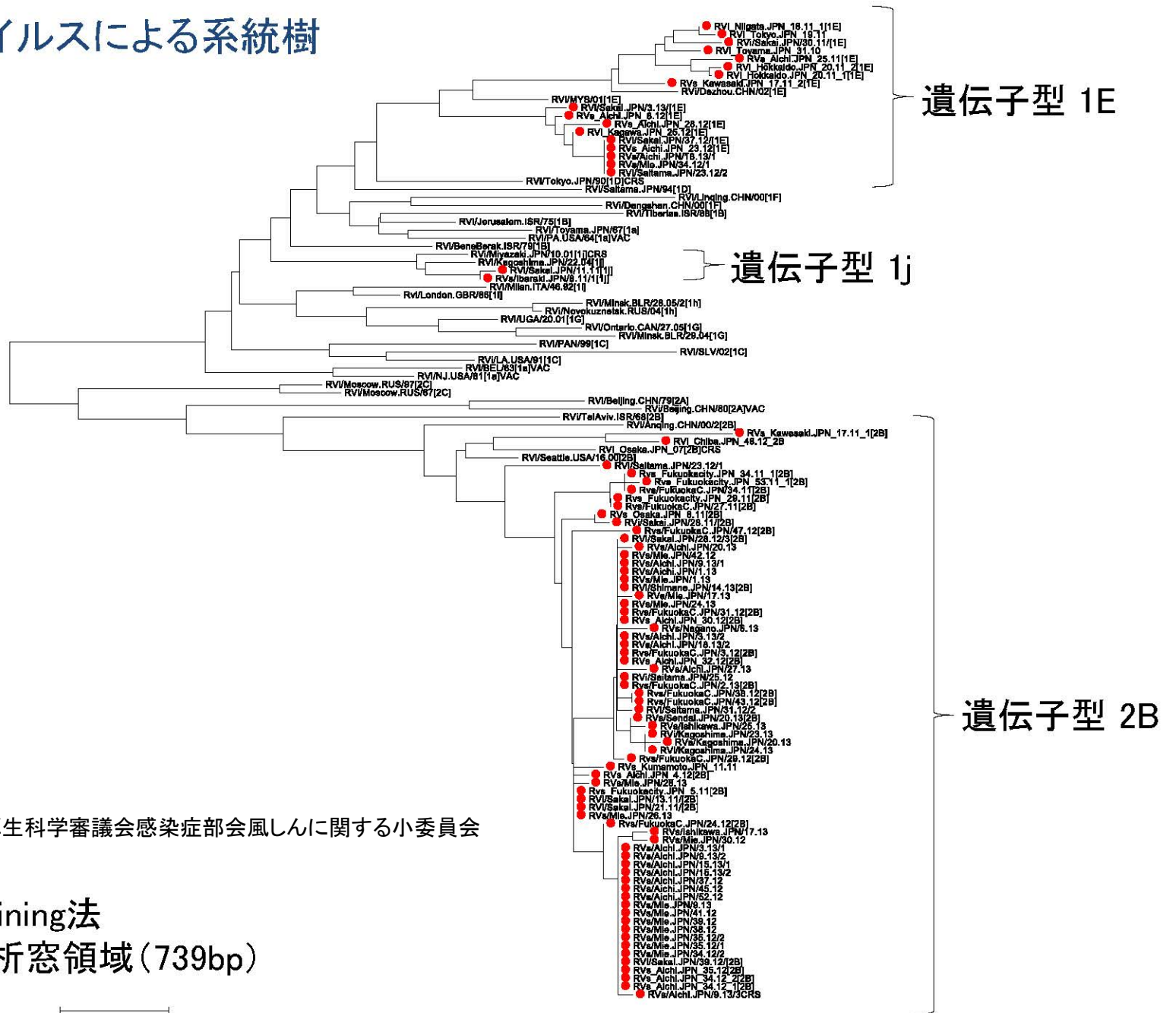


南東アジア地域における風疹ウイルスの遺伝子型 2010-2013年

引用：平成25年9月30日第1回厚生科学審議会感染症部会風しんに関する小委員会－国立感染症研究所資料



日本の風疹ウイルスによる系統樹 2010-2013



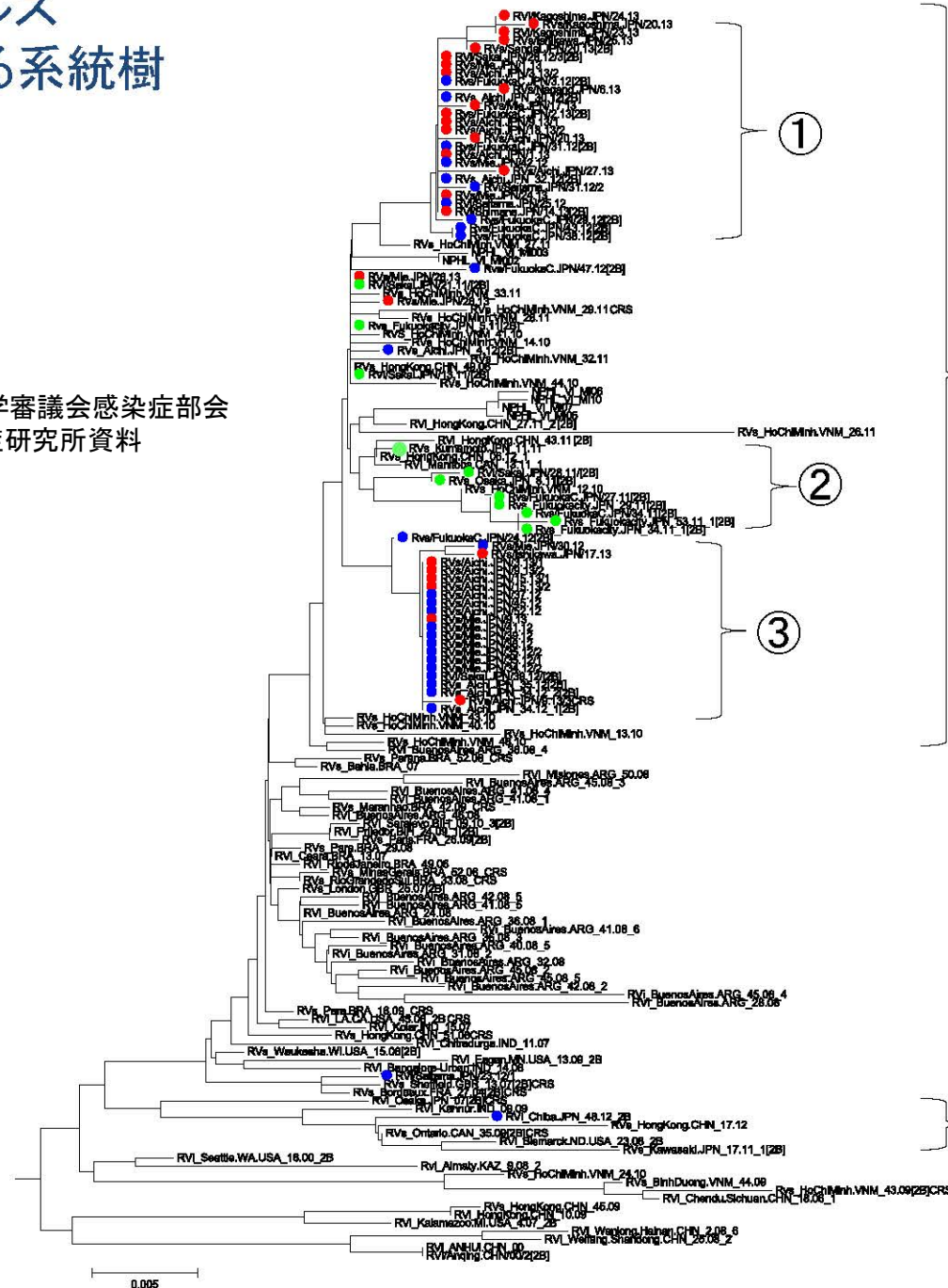
引用: 平成25年9月30日第1回厚生科学審議会感染症部会風しんに関する小委員会
国立感染症研究所資料

Neighbor-Joining法
遺伝子型解析窓領域(739bp)

日本の風疹ウイルス 遺伝子型2Bによる系統樹 2011-2013

- 2011
- 2012
- 2013

引用: 平成25年9月30日第1回厚生科学審議会感染症部会
風しんに関する小委員会—国立感染症研究所資料



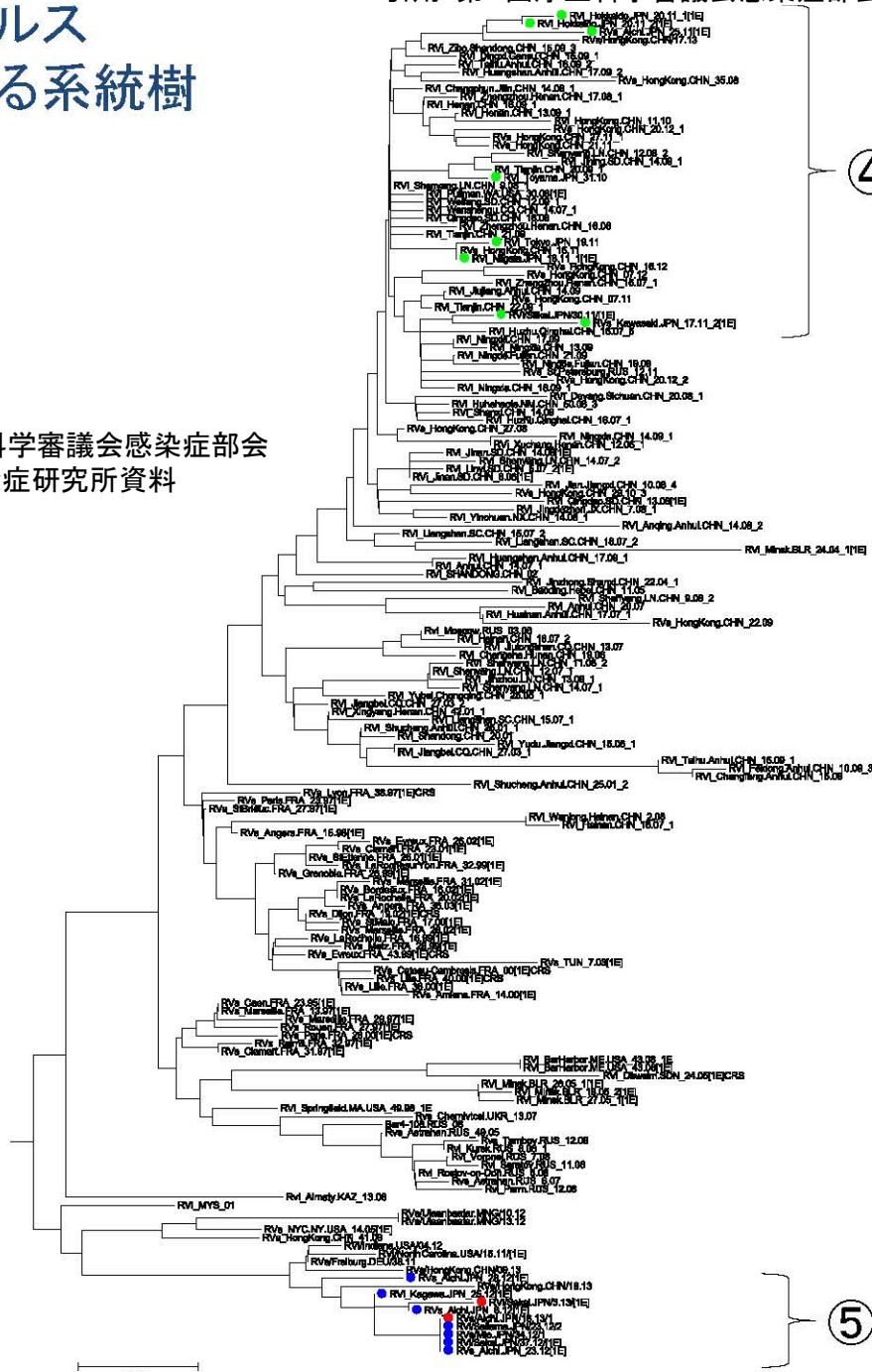
東南アジア株
ベトナム、マレーシア、香
港、
2010-2011

南アジア株

日本の風疹ウイルス 遺伝子型1Eによる系統樹 2010-2013

- 2010-2011
- 2012
- 2013

引用: 平成25年9月30日第1回厚生科学審議会感染症部会風しんに関する小委員会—国立感染症研究所資料



中国株
中国、香港
2010-2011

流行地不明株

④

⑤

2010-2013年の風疹ウイルス株の推移

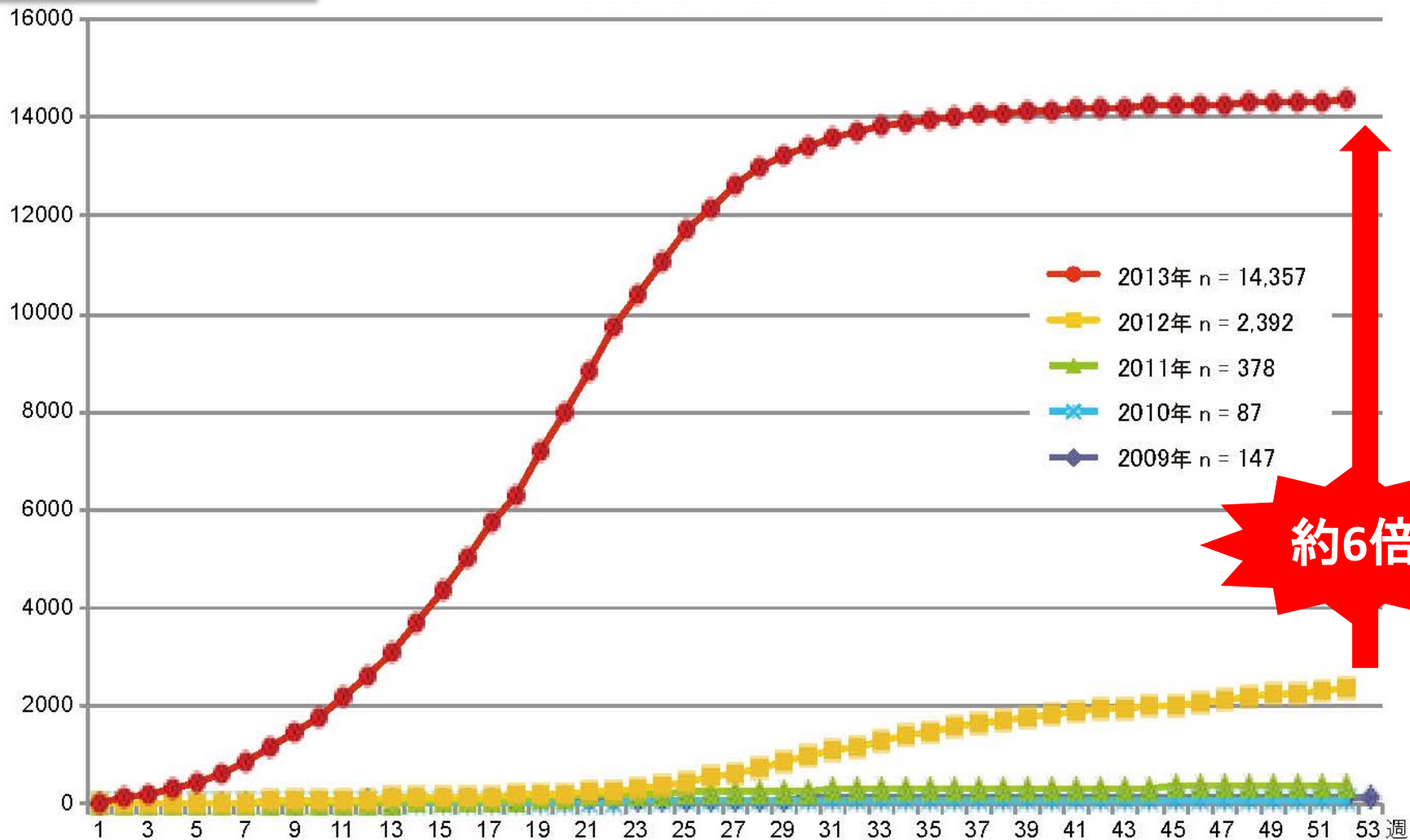
引用：平成25年9月30日第1回厚生科学審議会感染症部会風しんに関する小委員会－国立感染症研究所資料

遺伝子型	クラスター	近縁株	年／週														
			2010	2011					2012					2013			
				1-10	11-20	21-30	31-40	41-52	1-10	11-20	21-30	31-40	41-52	1-10	11-20	21-30	
2B	①	東南アジア						1		5	4	2	6	5	5		
	②	東南アジア	1	1	3	2	1										
	③	東南アジア							1	1	10	3	4	3			
1E	④	中国	1		5	2											
	⑤	?						1		3	1		1	1			
1j			1	1													

近年、複数のウイルス株がわが国に入り込んできている。

少なくとも3種類のウイルス株による感染が2012-2013年の風しんの流行の原因となっている。

累積報告数の推移(2009-2013年)



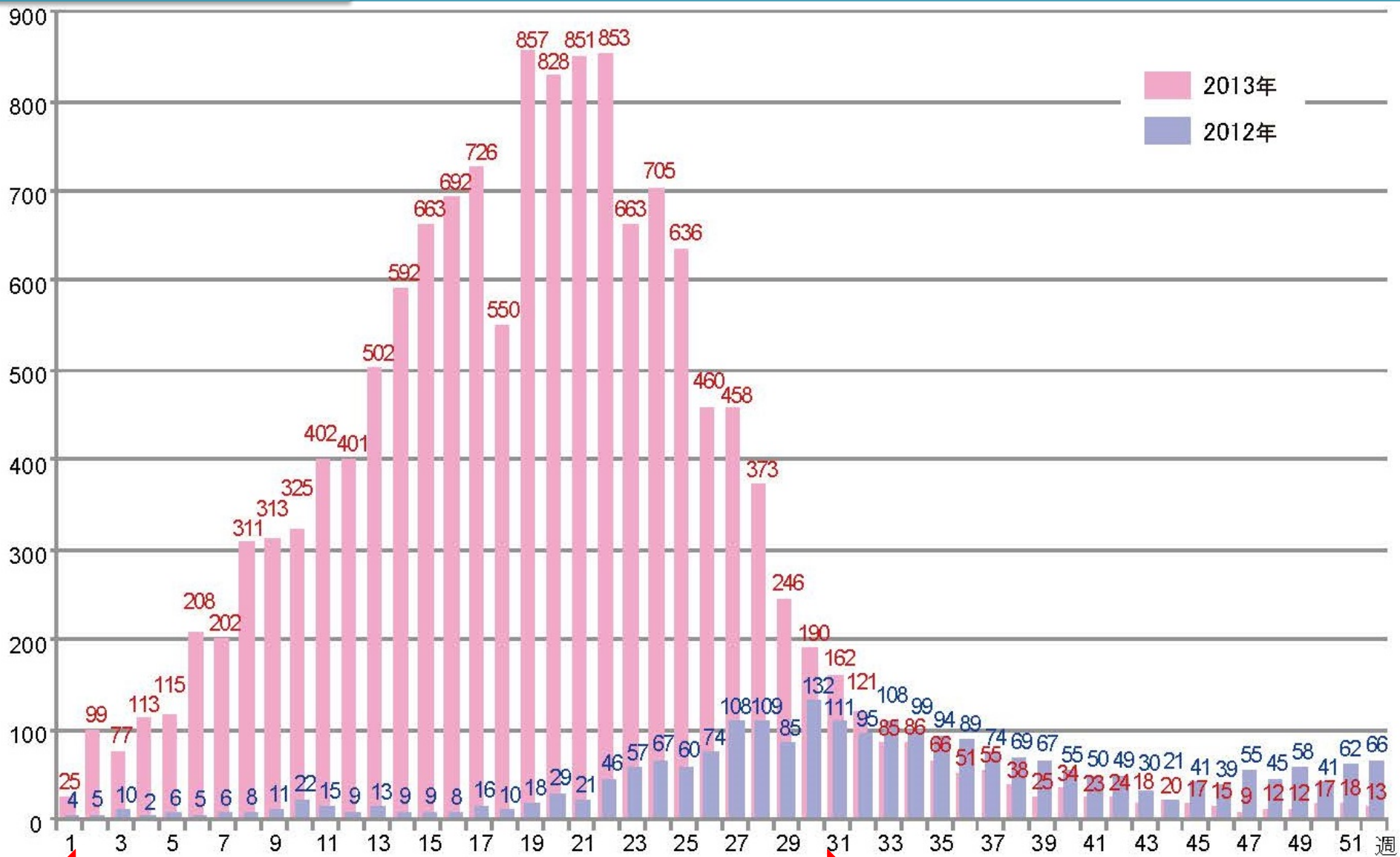
診断週にもとづいた報告

感染症発生動向調査 2014年1月7日現在

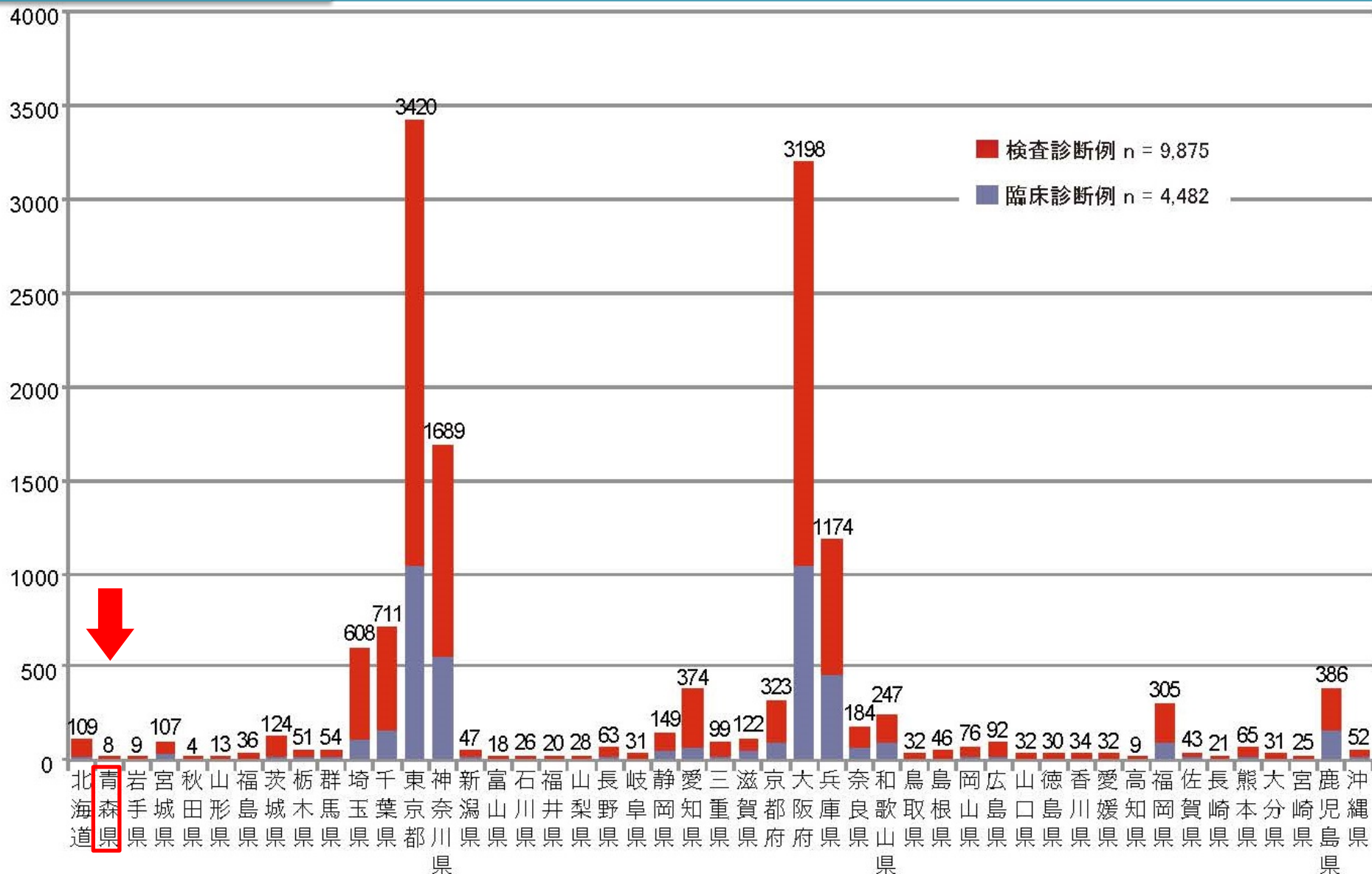
2013年は2008年以降で最多の報告数（※青森県：2008年1例、2012年2例、2013年8例）

風しん

週別報告数(2012-2013年)



1~31週(8月4日)までで年間の約95%の報告数

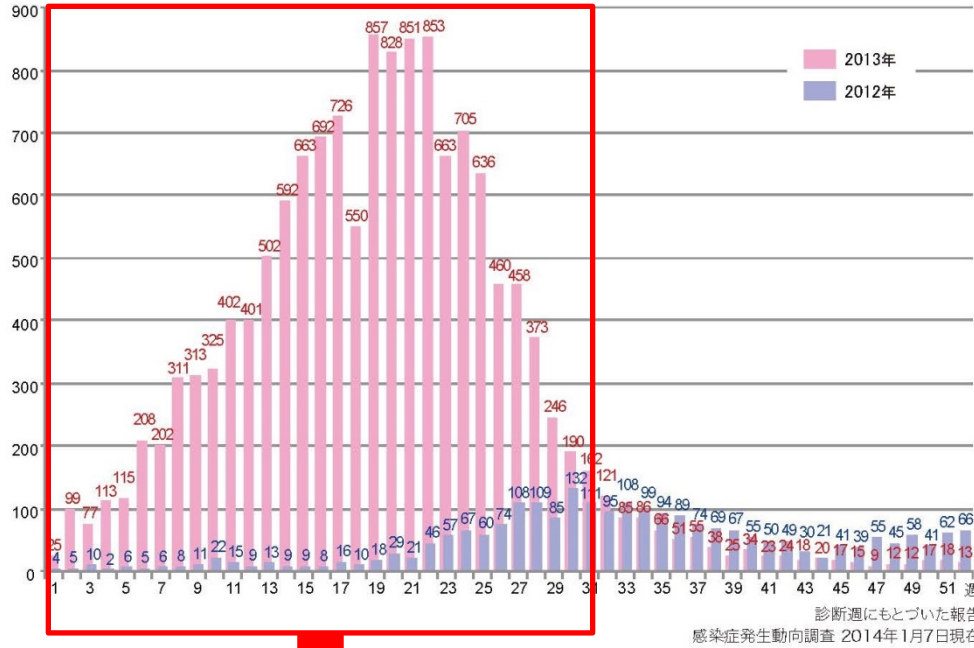


青森県(検査診断例:7例、臨床診断例1例)

風しん

先天性風しん症候群(CRS)の報告 (1999年4月～2013年 n=55)

風しんの週別報告数(2012-2013年)



妊娠初期の風しん感染で胎児に異常が認められることがある。
妊娠20週以降の風しん感染では胎児に異常なしのことが多い。

秋～冬になって、CRSの報告数が増加

(感染症発生動向調査 2014年1月22日現在)

年	診断週	報告都道府県	感染地域	性別	母親のワクチン接種歴	母親の妊娠中の風しん罹患歴
2000年(n=1)	26週	大阪府		女	無	無
2001年(n=1)	29週	宮崎県		女	不明	不明
2002年(n=1)	50週	岡山県		男	不明	あり
2003年(n=1)	20週	広島県		女	無	あり
2004年(n=10)	9週	岡山県		女	不明	あり
	10週	東京都		女	不明	あり
	15週	岡山県		女	あり(母子手帳に記載)	無
	17週	東京都		男	無	あり
	24週	東京都		女	無	あり
	40週	鹿児島県		女	あり(記憶のみ)	無
	40週	神奈川県		男	あり(記憶のみ)	無
	41週	熊本県		男	無	あり
	47週	長野県		女	不明	あり
	52週	大分県		女	無	不明
2005年(n=2)	41週	大阪府	インド	男	不明	あり
	50週	愛知県		女	不明	あり
2009年(n=2)	36週	長野県	フィリピン	男	無	あり
	52週	愛知県	愛知県	男	あり(詳細不明)	あり
2011年(n=1)	22週	群馬県	ベトナム	女	無	あり
2012年(n=4)	42週	兵庫県	兵庫県	女	無	あり
	46週	香川県	香川県	男	無	あり
	47週	兵庫県	兵庫県	女	不明	不明
	50週	埼玉県	埼玉県	男	無	あり
2013年(n=32)	2週	大阪府	大阪府	男	無	あり
	10週	愛知県	愛知県	女	無	あり
	12週	東京都	東京都	男	無	あり
	16週	神奈川県	神奈川県	男	無	あり
	16週	愛知県	愛知県	男	不明	無
	23週	東京都	神奈川県	女	不明	不明
	25週	東京都	東京都	男	不明	あり
	27週	千葉県	千葉県	男	不明	あり
	30週	東京都	埼玉県	男	不明	あり
	32週	東京都	東京都	女	無	あり
	32週	東京都	東京都	男	無	あり
	34週	東京都	東京都	男	あり(平成4年:MMR)	無
	34週	東京都	神奈川県	女	無	不明
	37週	大阪府	大阪府	女	不明	あり
	39週	埼玉県	埼玉県	男	不明	不明
	40週	大阪府	大阪府	女	無	あり
41週	東京都	東京都	女	不明	あり	
43週	東京都	東京都	男	不明	あり	
43週	東京都	東京都	女	無	あり	
44週	埼玉県	埼玉県	女	あり(年不明:種類不明)	あり	
44週	三重県	大阪府	男	無	あり	
44週	大阪府	大阪府	男	不明	あり	
45週	和歌山県	和歌山県	男	あり(平成12年:風しん単抗原)	不明	
45週	大阪府	大阪府	女	不明	あり	
45週	東京都	不明	女	あり(平成21年:種類不明)	不明	
48週	神奈川県	神奈川県	女	無	あり	
49週	和歌山県	和歌山県	男	あり(平成19年:風しん単抗原)	不明	
49週	三重県	三重県	女	あり(平成10年:風しん単抗原)	無	
49週	東京都	東京都	男	不明	あり	
51週	栃木県	埼玉県	男	不明	不明	
52週	神奈川県	神奈川県	女	不明	あり	
52週	埼玉県	埼玉県	男	不明	あり	
2014年(n=4)	2週	福島県	福島県	男	無	あり
	2週	東京都	東京都	女	不明	あり
	2週	島根県	島根県	女	不明	無
	2週	兵庫県	兵庫県	男	不明	不明

No.	届出月	区分	年齢	性別	ワクチン接種歴	所管保健所
1	1月	検査診断例	22歳	男	不明	弘前保健所
2	3月	検査診断例	44歳	男	不明	青森市保健所
3	4月	検査診断例	44歳	男	不明	上十三保健所
4	4月	検査診断例	29歳	女	不明	むつ保健所
5	5月	検査診断例	39歳	男	不明	上十三保健所
6	5月	検査診断例	34歳	男	なし	八戸保健所
7	5月	検査診断例	8歳	男	あり	五所川原保健所
8	7月	臨床診断例	24歳	男	なし	上十三保健所

注) 検査診断例: 届出に必要な臨床症状の1つ以上を満たし、かつ、次の病原体診断のいずれかを満たすもの

分離・同定による病原体の検出: 咽頭拭い液、血液、髄液、尿

検体から直接のPCR法による病原体の遺伝子の検出: 咽頭拭い液、血液、髄液、尿

抗体の検出(IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇): 血清

臨床診断例: 全身性の小紅斑や紅色丘疹、発熱、リンパ節腫脹の3つすべてを満たすもの

臨床診断のみで届出が可能であるが、PCR検査を積極的に併用したい